

K.S.J. 香川県森連時報

KAGAWA SHINREN JIHO
KAGAWA SHINRIN KUMIAI BENGOKAI.

36

令和4年2月発行(年2回/1月・7月)

新年
謹賀

新年の
ご挨拶

森は地球の財産です。

JForest

会長新年のご挨拶

香川県森林組合連合会 代表理事会長 五所野尾 恭一



新年明けましておめでとうございます。

森林組合の役職員をはじめ組合員の皆様方におかれましては、本会の業務運営につきまして格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった年となり、感染第5波に見舞われた夏場は、県内でも感染者が急増し、8月には緊急事態宣言に準じる「まん延防止等重点措置」が本県に初めて適用されるなど、感染防止を最優先した1年となりました。感染防止対策の徹底やワクチン接種の拡大により新規感染者数は次第に減少しましたが、年末には感染力の強い新たな変異株が出現し、再び猛威を振るう恐れが出てきており、予断を許さない状況となっております。

我々は、新型コロナウイルスの感染予防を徹底しながら、地域の森林管理主体として森林整備を積極的に取り組んでいくとともに、森林環境譲与税を地域の森林整備に有効に活用するよう、市町と連携していかなければなりません。

それとともに、県産材の更なる需要拡大を実現させるとともに、効率的な県産材供給体制の構築や流通加工体制整備や森林整備の担い手育成に取り組むことにより、県産材生産サイクルや山村地域の活性化を図ることが不可欠であると考えております。

また、昨年は、改正森林組合法が施行され、組合員資格の拡大や、業務執行体制の強化策が講じられることになったほか、合併以外の様々な連携手法が導入されました。

一方、森林組合系統では、新森林組合系統運動「JForestビジョン2030」の取り組みを開始します。本運動では、地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向け、組合員サービスの向上、働く人の所得向上と就業環境改善、事業拡大と効率化による経営の安定を目指すこととしております。

最後になりますが、会員の皆さんをはじめ関係機関各位のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、コロナ禍が一日も早く終息し、皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

謹
賀
新
年

香川県森林組合連合会
代表理事会長 五所野尾恭一
副会長理事 佐々木 博
代表理事専務 道久 工
理 事 三角 正博

理 事 松浦 可稔
理 事 三宅 義明
理 事 井上喜代文
理 事 宮本 欣貞
理 事 大西 洋造

理 事 廣瀬 辰夫
理 事 細谷 浩章
代表監事 大谷 徳
監 事 大西 要
監 事 行梅 義照



報告 かがわ協同組合連絡協議会の海の清掃活動に参加

10月30日（土）当会をはじめとする県内の12団体で構成する「かがわ協同組合連絡協議会」は、高松市の海岸で海の清掃活動を実施した。同協議会は協同組合の価値や社会における役割を県民に認知してもらい、連携して新たな価値を創出することを目的に平成25年6月に設立されたもので、持続可能な開発目標（SDGs）を取り入れた社会貢献活動として、海のゴミについて学ぶ講義を受けた後、総勢58人で海岸を清掃した。同協議会は使用済み切手を回収し香川県ユニセフ協会に贈呈するなどの活動も行っている。

報告 県知事及び県議会に要望書提出

11月10日（水）本会と県内森林組合長会議は、低迷が続く林業情勢の中で森林整備に必要な予算の確保、担い手育成確保、県産木材の利用促進、里山資源の利用促進、森林環境譲与税の活用について、浜田香川県知事並びに十河香川県議会議長に要望書を渡し陳情を行った。

**報告** 林業労働安全衛生研修会開催

11月2日（火）塩江町森林組合、11月17日（水）香川西部森林組合、11月29日（月）香川東部森林組合において、四国森林管理局香川森林管理事務所田邊宏森林技術指導官、富田忠雄調整官、林災防山本正晴安全管理士、林災防陶山芳伸安全技能師範を講師に迎え、林業労働安全衛生研修会を行った。研修会では昨年引き続き、林災防が作成した簡易リスクアセスメント記録書に基づき、グループに分かれて危険性又は有害性の洗い出しや、その低減対策を検討し発表を行った。総勢119名の林業事業者関係者が出席し、チェーンソー作業従事者については、振動特殊健康診断も行った。

**報告** 香川県漁連青壮年部連絡協議会による植樹活動

11月20日（土）、香川県漁協青壮年部連絡協議会による植樹活動が、公洲公園内の県有林において行われ、本会からも職員が参加した。

これは近年における瀬戸内海の低栄養塩化による漁場環境の変化により、漁業生産の継続が危惧されていることから、香川県漁協青壮年部連絡協議会が、森林と海の相互関係を重視し、荒廃している森林を豊かにすることにより、豊かな海を取り戻すため、荒廃した森林を整備して広葉樹を植え、豊富な栄養が河川を通り海に流れ込むよう取り組んでいるもので、今回は広葉樹を植樹する前の地拵え作業として竹林の伐採が行われ、多くの職員が参加し、汗を流した。



特集

さぬき空港公園便り

本会がさぬき空港公園の指定管理に取り組み始めて、早くも10年目となりました。無事指定管理2期目の最終年度を迎えることができたのも、関係各位の多大なるご支援や、ご利用いただく来園者の皆様のご協力によるものと深く感謝するとともに厚くお礼を申し上げる次第です。

本会は、平成24年度から10年間、これまで培った知識と経験を活かし、来園者の皆様がより快適に公園を利用していただくための取り組みに力を入れてまいりました。公園施設の利便性向上面では、要望が多かった和式トイレの洋式化を実施し、今年度で全てのトイレを洋式化しました。このほか、案内看板の英語表記追加や、緊急時に位置を正確に把握していただくための通報プレート、東屋やベンチ等の新設も行いました。また、一輪車や自転車、スケートボード等の練習で大変好評であるアドベンチャーゾーン体験広場の手すりを20mから40mに延長したり、傷んだアスファルトの再舗装も行いました。アスファルトの再舗装につきましては、今年度で全ての再舗装が完了する見込みとなっております。

公園のイベント関係では、「真夏の雪遊び」「夏休み宿題応援団」「健康ミニマラソン」「一輪車教室」「グラススキー感謝祭」やさぬき空港公園開設30周年を記念した「ささやかなあじさいエリアの見学会」、福祉施設との合同で「障害者グランドゴルフ交流会」など、毎年多くのイベント開催に取り組みしました。

公園のPR活動では、周辺施設と連携して、空港周辺施設の案内マップ（多言語対応）の作成や、合同のInstagramの開設を行うなどPR活動にも力を入れてまいりました。

令和4年度からの5年間も本会が指定管理者に選定されたので、これからも多くの県民の方にさぬき空港公園を知ってもらい、多くの来園者の皆様にさぬき空港公園を楽しんでもらえるようスタッフ一同より一層努力してまいります。

次に、今年度を振り返りますと、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年となりました。

グラススキー場では約2か月半の間臨時休業を

余儀なくされ、イベントに関しましても、10月以降のほとんどのイベントを中止いたしました。

また、他の空港周辺施設と合同で開催を計画していた「高松空港周辺施設合同スタンプラリー」も延期することになりました。



真夏の雪遊び

そのような中、大変人気の高い「真夏の雪遊び」を8月1日に開催することが出来ました。降雪回数を8回とし各10組、合計80組の事前予約制にし、感染対策を徹底した上で開催いたしました。そのほか、「緑のカーテン

教室&花苗の植え付け教室」「七夕祭り」「障害者グランドゴルフ交流会」などのイベントも開催することができました。

コロナ禍の中ではありましたが、感染対策については皆様のご協力をいただき、桜の開花時期には約1万人もの皆様にご来園いただくことが出来ました。また、11月には新型コロナウイルス感染症の警戒レベルが緩和したこともあり、幼稚園・保育園・小学校の遠足で多くの団体様にご利用いただきました。ソリゲレンデに関しましては、11月の利用者数をみますと、過去10年間で最も多い利用者数となりました。

今年度も残り僅かとなりましたが、来園者の皆様の安全・安心を一番に考えた管理運営を行っていきたくと考えております。

現在、来年度に向けて、多くの来園者が見込まれるお花見の準備を行っています。来年度も分散してお花見に来ていただけるよう、開園時間の延長を継続して行う予定にしています。延長の時期や期間は、桜の開花予報や開花状況を考慮して、当公園公式ホームページ (<https://sanuki-airport-park.com/>) やその他の方法でお知らせする予定です。

最後になりますが、これからもスタッフ一同公園の適切な管理運営と県民サービスの向上に全力を挙げて取り組んでまいりますと存じますので、これまで同様にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



健康ミニマラソン



一輪車教室



グラススキー感謝祭



ソメイヨシノ

